

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」

富田 三紗子(当館学芸員)

荻野 龍子(元古文書解読クラブ会員)

一 はじめに

大磯町郷土資料館(以下、当館)は、江戸期に大磯宿の本陣を務めた小嶋(1)本陣の古文書群を所蔵している。本稿では、その内、寛政一二年

(一八〇〇)の「記憶簿」(2)を紹介する。

この資料は、『大磯町史』にコラムとして紹介されている資料であり(3)、大磯宿に三軒あった本陣のいずれを、どの大名が定宿にしていたのかを示している。また、体裁が武鑑のようになっており、大きく大名の名称が書かれた両脇に、石高と藩名、江戸屋敷の所在地などを記し、槍印と荷印が絵入りで描かれている。

大磯宿小嶋本陣資料については、大磯町教育委員会によって、昭和四〇年(一九六五)から平成元年(一九八九)にかけて断続的に翻刻集が刊行されているが、寛政一二年の「記憶簿」については、その視覚的描写からか収録されていない。そのため、今回初めてその内容を活字化して公表することとなる。本資料は大磯宿の三本陣の力関係を示すだけでなく、同時に作成された「寛政武鑑」と比較することにより、大名研究にも資することができらるだろう。本資料が広く活用されれば幸いである。

注

(1)「小嶋」の表記には「小島」もあるが、本稿では原則として「小

嶋」を使用する。ただし、資料群名としては「小島」が採用されているため、資料群名を表記する際は「小島」を使用する。

(2) 大磯宿小嶋本陣資料六一、法量一七×一二センチメートル

(3) 大磯町編『大磯町史』6通史編古代・中世・近世、大磯町、二〇〇四年、三一二頁

二 表紙・凡例・集計・裏表紙の解読

「記憶簿」には、三丁裏に凡例が記され、本編の末尾(二六丁裏から二八丁裏)に作成者と集計が記されている。ここでは、表紙、裏表紙も含めて、それらの本編以外の解読文を掲載する。

【一丁表・表紙】



寛政(十二カ) 庚申年

記憶簿

夏六月吉日

【資料紹介】東海道大磯宿小嶋本陣の「記憶簿」(富田・荻野)

【三丁裏・凡例】



■ 城持之御方様

△ 国主御方様

□ 城格之御方様

ト 外様

フ 御譜代之御方様

● 御定宿

ヲ 尾上定宿

イ 石井定宿

※符号の色は写真参照。

【二六丁裏く二八丁裏・集計など】

相陽大磯宿

御本陣

小嶋才三郎周幹

書

同才三郎倅

小嶋悦蔵周政

引 東海道御通過御通行候

御大名様方

イ

式拾六領 御出入

此内御定府も有之候

三軒

惣 式百五拾八領

御本陣有之候

外六領ハ御本陣無之候

式百六拾四領

右寛政十二年

庚申六月ろ七月朔日

迄ニ書出申傳物也

...

御大名様方

都合式百六拾四領

内百四拾三領御出入

此内七領カ

内、老領ハ八分ハ〔朱書〕●〔朱書ここまで〕なつ印

百四拾三領之内

奥御大名様方

六拾四領〔朱書〕●〔朱書ここまで〕

引ベ東海道被為 遊御通行候

御大名様方

七拾九領 御出入●

尤此内御定府之御方様も有之候

ヲ

七拾六領 御出入

内五領カ

七拾六領之内

奥御大名様方

式拾領

引ベ東海道被為 遊御通行候

御大名様方

ヲ

五拾六領 御出入

此内御定府も有之候

イ

三拾九領 御出入

内式領カ

三拾九領之内

奥御大名様方

拾三領

【三五丁裏・裏表紙】



大磯宿

御本陣

小嶋氏

三 本編の解読

四丁表から二四丁裏までが本編となる。体裁は写真の通りであり、本稿ではより内容を理解しやすくするため、後述する記載に従って表にまとめた。なお、表には参考として姓と諱を追加した。

【表凡例】

- ・石高は算用数字に改めた。
- ・符号 1 には符号ではない表記もある。
- ・亀甲括弧〔〕は執筆者が付した内容。
- ・名の表記は原則としてそのままであり、実際には相続されている場合もある。
- ・-は空欄を示す。
- ・振り仮名がある場合は/の後に表記した。



写真 4 丁表

